



子どもが国語が大好きになる授業改善法を研究

みとべ しゅうじ
発達教育学部 教育学科 教授 水戸部 修治子どもたちが考えを発信する探究的な授業の実践方法を研究
「ペア交流」や「並行読書マトリックス」など革新的な国語の指導法を開発コメントできる
研究領域国語科
学習指導要領

国語科教育学

授業改善

探究学習

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、小学校国語科の授業改善について研究する、教育学科の水戸部修治教授をご紹介します。

■ 文科省で国語の学習指導要領を作成。子どもたちが、主体的・探究的に学ぶ国語科の授業づくりを研究。

文部科学省在職時は教科調査官として、現行の国語の学習指導要領の作成に責任者として携わってきた水戸部教授。現在は教員を目指す学生を指導しながら、子どもたちが意見交流を重ねながら、主体的に話し合う授業作りを研究しています。実践に重点を置き、全国の小学校に赴き、授業を見て改善法を協議しています。

■ 国語は子どもたちの不人気教科。場面ごとに読み解く発問中心の授業では、多様化した子どもたちに対応できず。

日本の国語科授業は2020年に学習指導要領が改訂されるまで、教科書を場面ごとに細分化して丹念に読み解く授業が主流でした。これは戦争で本が失われ、教科書しか読む本がなかった時代から変わってきませんでした。そのため、現在では数多くの子どもの向ける魅力的な本があるにも関わらず、読書機会を広げ、自分で作品を選び、考え、表現するという力が育っていません。また、教師による発問中心の授業は、答えが分かっている子どもの意見だけで授業が進んでしまい、意見を言わない子や発問の意図が分からない、登場人物の心情に共感できない子どもたちへの指導が難しくなっています。

■ 「ペア交流」や「並行読書マトリックス」など革新的な国語授業を指導。

水戸部教授は、45分授業の30分を使って子どもたちが相手を変えながら主体的に意見交換（ペア交流）をし、残り15分で自分の意見をまとめる「ロングレンジの学習活動」を提唱しています。この授業方法であれば、熟練の教師でなくとも個別指導や子どもの個性に応じた指導を進めることができます。

しかし、このような授業を円滑に進めるためには、教師による入念な準備が必要です。水戸部教授は、「ペア交流」のモデル動画や授業の進め方を視覚化したリーフレットの作成、あらかじめ同じシリーズの本を教室に置き子どもたちに読んでもらった上で「ペア交流」で作品の魅力をはっきりさせる「並行読書マトリックス」など、様々な斬新な指導の手立てを考案しています。

教育学科の学生たちは、模擬授業で水戸部教授による革新的な授業手立ての指導を受けており、教員採用後も、京女の卒業生ならではの国語科の授業づくりを実践しています。

水戸部修治（みとべ・しゅうじ） Profile

<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kywuhp/KgApp/k03/resid/S001739>

略歴 1965年生まれ。1988年 山形大学教育学部小学校教員養成課程 卒業。1998年 山形大学大学院教育学研究科教科教育専攻 修士 修了。山形県教育庁義務教育課 指導主事、山形大学地域教育文化学部准教授、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官などを経て、2017年より現職。

論文 「小・中9年間の系統性を生かした国語科の学習指導に関する考察：「書くこと」における構成の検討を中心に」

（単著/2025年/京都女子大学教職支援センター研究紀要）

著書 『「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する国語授業モデル—主体的な学びを支える「ロングレンジ」の活動アイデア』

（単著/2024年/明治図書）、『小学校国語教科書（光村図書）』（2024年）

< 本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先 >

- ・ 京都女子大学入試広報課 岡橋・竹縄 TEL: 075-531-7054 FAX: 075-531-7222
- ・ 京都女子大学広報デスク（プラニング・ポート内）福嶋・井上 TEL: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216
- ・ 京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>